【青春期の健康・発達調査】
TEEN COHORT

Contents

●巻頭
応援メッセージ：竹澤 健介
●特集
｜いじめのこと、知っていますか？
｜お引越しされた世帯について
●研究者紹介
森田 正哉
●巻末
今後も引き続きご協力お願いします

TOKYO TEEN COHORT NEWS LETTER

東京ティーンコホート
ニュースレター
Vol.9
2017. JUN

お子さんが 10歳のときに始まった東京ティーンコホート調査も、いよいよお子さんが思春期まっただ中、青春の日々を過ごす時期を迎えました。お子さんと同様、東京ティーンコホートもここからさらに花開いていくことになります。みなさまの変わらぬご協力に、心より感謝申し上げます。
さて、12歳時調査は無事に終了し、3,007のご世帯から協力をいただくことができました。現在、14歳時調査が始まっています。また引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

応援メッセージ

子どもの可能性は無限大。その可能性を信じ、広げてあげることが大人の役割だと考えています。

サポーターファイル 09

2008年 北京オリンピック
5000m・10000m日本代表

竹澤　健介

1986年10月11日生まれ。兵庫県姫路市出身。早稲田大学スポーツ科学部卒業。中学時代からトラックの中・長距離で活躍し、早稲田大学進学後、箱根駅伝に1年時から出場、2008年大会では3区で区間1位となり、区間賞を獲得。箱根駅伝往路優勝に貢献した。日本代表として2007年に世界陸上大阪大会で10000m、2008年北京オリンピックには5000m、10000mに出場した。2013年エスビー食品を経て7月に住友電工に入社。チームを2014年元日のニューイヤー駅伝初出場に導く以降、チームのエースとしてニューイヤー駅伝3年連続出場に貢献。

【主な競技成績】
2007年　箱根駅伝　2区　区間賞
2008年　北京オリンピック5000m・10000m日本代表(早大4年時)
【自己記録】
5000m　13分19秒00(2007年)
10000m　27分45秒59(2007年)

私は、兵庫県姫路市に生まれ、幼少期を過ごしました。幼い頃に、喘息を患っていた事から、小学生の頃は水泳を習っていました。強化コースに在籍していたので、週に5日みっちり1時間半の練習があり、家に帰るともうくたくたに疲れてご飯を食べながらうとうとして眠ってしまうこともよくありました。夜9時には床に就いていたので、9 時間以上は眠っていたと思います。中学から陸上競技を始めましたが、幼い頃に身についた長時間睡眠や練習後の昼寝の習慣は大人になるまで変わりませんでした。大学に入学してからは、他の学生よりも自分の睡眠時間が長く、昼寝も頻繁にする事に疑問を抱いたことがきっかけで、睡眠を研究しているゼミを選びました。学んでいく中で技能学習に昼寝が有効である事や、長時間睡眠が競技力の向上につながることが分かり、「そういうことだったのか、」と腑に落ちた事を覚えています。
私は大学在学中にオリンピックに出場することが出来ましたが、はじめから目指していたわけではありません。そのときそのときに合った目前の目標を達成していくことで少しずつオリンピック出場という結果に近づいていったように思います。
思春期の私の周りにはオリンピック選手はいませんでしたし、ましてや自分がオリンピック選手になるなど、夢にも思いませんでした。私はいたって普通の子どもだったように思います。
まだ将来のことと意識していない幼い頃から、大人が適切な環境を整えてくれたこと、そして何よりも思春期に私の可能性を信じ、接してくれる大人が周りにいたことが、私をオリンピックまで導いてくれたと考えています。
子どもは大人が考える以上の可能性を秘めています。
夢や目標を持つ子どもの可能性を信じ、広げてあげることが大人の役割であると考えます。本研究が子どもの可能性を広げる一助になる事を心から期待しています。

過去の応援メッセージはホームページ上でご覧いただけます
東京ティーンコホート　検索

研究スタッフ紹介

森田 正哉
東京大学大学院
医学系研究科

私は幼い頃からドラえもんをこよなく愛してきましたが、今では毎週子どもと一緒に観るようになりました。ドラえもんの声が替わって早10年、昔の声に懐かしさを覚えつつも、新しい声から吹き込まれる若々しい躍動に、いつも心踊らされています。時の流れとともに変わるところはあっても、根の部分の暖かさは変わらずそこにあり、今の子どもたちの間でもドラえもんが元気に芽吹き続けていることを嬉しく思いますし、「変わっていくこと」「変わらずにいること」、どちらも大切なことなのだなと改めて感じます。

子育てをしていると、親が知らぬうちに成長している姿を度々目撃するようになりました。親である私にできることは、実はごくわずかしかないのだなと感じます。それでも、おきあがりこぼしのように子どもが自分の力で立ち上がり、歩き出したときは暖かい目で見守り、道を外れそうなときはどっしり構えて支える、ドラえもんのような存在でありたいと願っています。そして研究者としても、思春期の子どもの成長を支えるべく、東京ティーンコホートにご協力いただいた皆さまの礎を道標にし、子どもたちの歩む道を明るく照らせるように、親御さんが安心して見守れるように、尽力していきたいと思います。

★ご住所が変更になるご家庭、ご住所が変更されたご家庭へのお願いです。

TOKYO TEEN COHORT PROJECT

調査お問い合わせ先
一般社団法人輿論科学協会「青春期の健康・発達コホート研究」事務局
〒151-8509　東京都渋谷区千駄ヶ谷4-8-6
Tel 0120-551-327（AM10:00～PM6:00）担当：島田・井田

研究実施機関
東京大学
公益財団法人東京都医学総合研究所
国立大学法人総合研究大学院大学

協力自治体窓口
世田谷保健所健康推進課
調布市教育委員会教育部指導室
三鷹市こども政策部児童青少年課

東京ティーンコホートの詳しい情報はホームページでもご覧いただけます
http://ttcp.umin.jp

デザインをリニューアルしました

◆ 第1号～第8号ニュースレターを掲載しています。
◆ 現在の調査協力者数や東京ティーンコホートを紹介する動画も掲載しています。

ティーンコホート TEEN COHORTとは？
思春期のお子さんとの健康と発達の過程をアンケート調査などにより、科学的に検討するプロジェクトです。

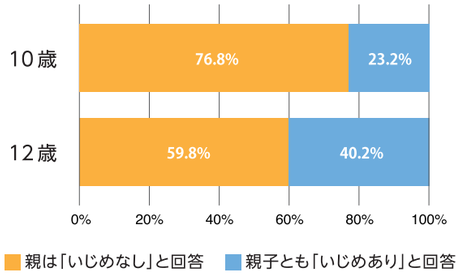
東京ティーンコホート　ニュースレター
第9号(2017年6月 発行)
発行：公益財団法人東京都医学総合研究所

いじめのこと、知っていますか？

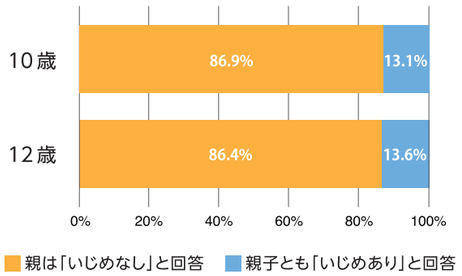
いじめは、思春期になると、ぐんと頻度が増えると言われています。お子さんがいじめられていても親御さんはそれを知らなかったり、親御さんから見るといじめられているようなのに本人は気にせずケロリとしていたり。いじめについて親子のズレがどのくらいあるのかを、東京ティーンコホート調査のデータから調べてみました。

10歳の調査では全体の32.0%のお子さんが、12歳の調査では9.5%が、「いじめられたことがある」と回答していました。このうち、親御さんが「お子さんがいじめられたことがある」と回答されている割合を調べてみると、10歳では、いじめ被害の76.8%が見落とされていることがわかりました。「いじめたことがある」と回答していた割合は、10歳の調査では全体の12.2%、12歳の調査では4.7%いました。12歳になると、10歳に比べていじめられている割合も、いじめている割合も減っていることがわかります。
いじめの内容を調べてみたところ、10歳では仲間はずれや言葉によるものが多くなっていました。12歳になると、10歳に比べてパソコンや携帯でのいじめが増えています。

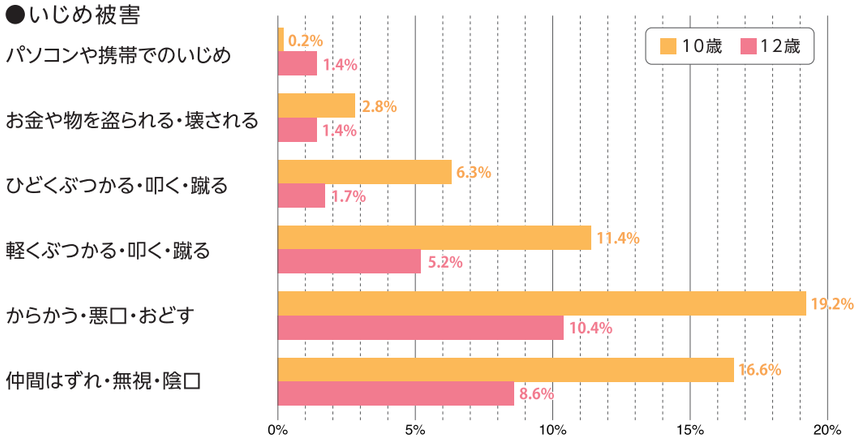
●いじめ被害



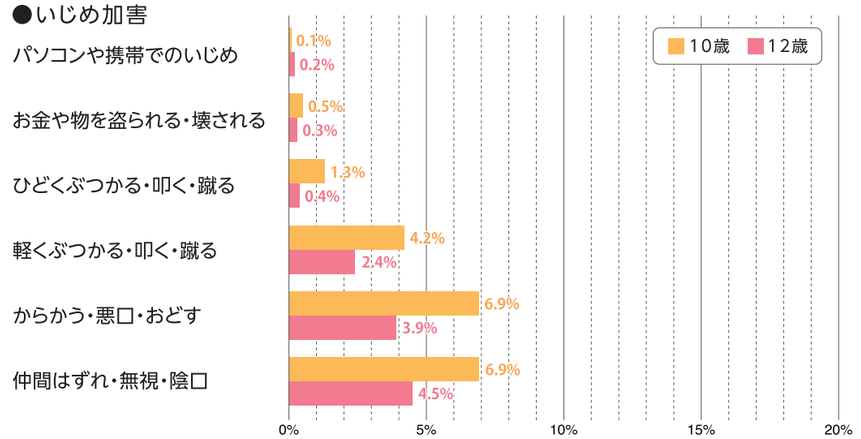
●いじめ加害



●いじめ被害



●いじめ加害



遠方調査

お引越しされた世帯へも調査員が伺っています

お引越しされた世帯のうち、80.6%のご家庭には、
研究チームの調査員による調査にご協力をいただいています。
みなさまとても親切にご協力くださいまして、心よりお礼申し上げます。